# ～　　N・W・N　　～

八女支部　八女県土整備事務所　堤　一輝

八女に配属されて早いもので３年が過ぎようとしている。と前回の作文同様の内容で書き始めるという成長の無さを実感している。前回と変わった事と言えば・・・未だに２回 10 失点でノックアウトされるしぃ、まだ設計書は不落になるしぃ、県職員辞めさせられてないしぃ、変わらず平凡で平和な日を送っている・・・・・んなわけない。

結局師匠と支承の違いが分からないまま、係異動により師匠とは別れを告げ二人別々の新しい島に配属された。新しい島は、都市施設整備課という課で、都市の施設を整備している課。今までの都市は 17 時 30 分には電気が消えているという、印象の課だったから僕は狂喜乱舞した。新採からずっと残業をやってきた僕に神と呼ばれる事務所の誰か偉い人？が手を差し伸べてくれたんだと思った。♪「あと三年間は定時退庁日です。都市の皆さんは日頃から迅速な事務処理に心掛け、特に緊急な用務が有る場合を除いて定時に退庁するよう・・」♪出来るっ！！・・・・・っんなわけはないわな。神はその手を裏返し僕を再び残業の海に投げ落とした。かぁみぃぃいぃぃぃ。そんな中たどり着いた島には、着信音がホークスの本多の応援歌という根っからの FSH ファン Y 住課長を筆頭に、公園のスペシャリストの呼び声高い、迫力満点熱血野蛮人こと U 﨑副長がいた。係異動初体験の僕だったが、前の係からゴシック眉毛の M 本先輩と一緒の航海だった。M 本先輩とは昔から“テプラ“争いをしていた。先輩は白テープの太ゴシック体を起用する伏があるが、僕は専ら透明テープの明朝体だ。毎回設定をお互いいじり合うという死闘を繰り広げていたため、兵隊が二人だけのこの課でちゃんとやっていけるのかという不安が残った。

都市の主な仕事は広域公園の整備と下水道の整備ということが判明。主幹課も 6 階から 7 階に変わり今までの仕事とは異なる部署だった。前課の国道建設係で２年間かけて育てた“僕の付け焼き刃”はほとんど役に立たなかった。ここには【道路構造令】という聖書は存在しない世界だった。それは現場で、「道路構造令通りですから・・多分」と言えば、相手に【一撃必殺効果抜群だ！】を発動出来ていたのに、それを発することが出来ないのだ。道路課時代はこんな本！！と思って引き裂こうかと思ったこともあったが、僕の握力じゃ、見開きのページは破れても、構造令は分厚すぎてついに破ることは無かった。そんな本だった。構造令の特例３種５級くらいがちょうど良かった。そんな後悔をしている暇もなく、公園開園に向け設計書を作る毎日だった・・・んなわけがない(もうくどい？)

なんだかんだ去年の忙しさより今年のほうが楽だった。２０歳になったというのもあり、飲み会という晴れ舞台を日々繰り返すことが多くなっていた。普段陰湿陰気根暗ムッツリな僕もアルコールを摂取するとアラ不思議と饒舌になるみたいだった。色んなところ、色んな人と飲みまくった。だが気がついた時には“HARA“が、“HARA“が、、、別人のようになっていた。まだピチピチの 20 歳なのに、腹年齢は 48 歳くらいだ。と友人に言われた。その友人の腹年齢は 52 歳だから間違いないだろう。お酒って怖いね。飲酒にイエローカードはありません。ってCMで言ってたけどほんとダネ。48 歳はレッドカードだよ・・・N(んな)・W(わけ)・N(ない)って言いたいヨ。

だけどこんな状況で３年間の成長を初めて実感した。それは僕がこんな太ってしまった状況にも係わらず、この現実(腹)を甘んじて受け入れているからだ！そしてまた今日(金曜日 or 土曜日)も街にくりだすのだった。

最後に今年もまともな文書になっていない駄文を最後までお読み下さいましてありがとうございます。まだまだ３年目で未熟という言葉に甘えるのも卒業しなければいけない年数だと思います。でもまだ一番年下なのであと１年甘えさせて貰いますが、これからも、目標は高く、先輩方の様な地元の方々の心に残していけるような技術者になれればと思います。そのためにも自分なりにも精進していく所存でございますのでこれからもご指導よろしくお願いします。